



## 他の場所ではよく見るのに旭山ではあまり見ない花

札幌圏をはじめ道内他の場所に行くときよく見るのに旭山ではあまり見ない花を集めてみました。

ただし、植物はそもそも、海岸、平野、草原、湿地、岩場、高山など環境によって生えている種類が違うので、ここでは旭山と似たような環境である山野のものに限り、季節を追って見てゆきます。

- フクジュソウ：早春を代表する花ですが、旭山都市環境林の池の周りに少しあるだけです。
- ナニワズ (写真1)：林床に咲く花ですが、公園内と都市環境林で計2か所しか見つかっていません
- ニリンソウ：春の山菜としても親しまれ水辺の周りに多く出る花ですが、第2駐車場資材置き場裏の川べりと都市環境林ふしぎ池周辺にあるだけです（毎年見られてはいます）
- ネコノメソウ (写真2)：春先群生する花ですが、かつて藻岩山登山口付近に出たことがあるだけです
- ヤブニンジン：藻岩山登山口付近にありましたがもう何年も見ていません
- オオヤマフスマ：旭山では年によりちらほらと見られるだけです
- ミツバツチグリ：やや明るい場所に多く出る花ですが、学びの森で見たことがあるだけです
- ウリノキ：円山登山道沿いに多く見られますが、旭山では見られません



- ヤナギラン (写真3)：ピンクの花、旭山ではかつて何度か見られただけです
- エゾイラクサ (写真4)：円山登山道動物園裏辺りに連なって生えていますが、旭山では以前からほとんど見られていません
- ノリウツギ：初夏に野山の林縁部や道路沿いで白い花が多く見られますが、旭山では都市環境林に1か所あるだけです（植栽木は園内数か所にあります）
- イケマ (写真5)：つる植物、旭山では道路沿いで見られる年もあるくらいです
- ハンゴンソウ：栗の木デッキ脇に一株あったものも見られなくなりました
- ハナタデ (写真6)：かつて登山道入口付近に群生していましたが今はありません
- ミゾソバ (写真7)：やや湿った場所に群生。旭山では以前数か所に小群落がありましたが近年がぐんと減り、ちびっこ広場の沢で見られるだけになりました
- サラシナショウマ (写真8)：秋に登山道脇で多くの花が見られますが、旭山では栗の木デッキ下や都市環境林ホオノキ散策路に数株見られるだけです



旭山記念公園は一度はげ山になった場所を中心として築かれているせいか、植物の多様性が低く、どこにでもある花はありますが、珍しい花はほぼありません。

## レストハウス「ぽるく」通信 2023年8月

「旭山記念公園フォトコンテスト 2023」

今年も素敵な写真のご応募、ありがとうございました。

こちらの写真がグランプリ金賞を受賞されました。おめでとうございます！

近年、野鳥の姿を見かけることが少なくなっている中、珍しい野鳥の撮影をありがとうございました。来園されたお客様と写真を拝見しながら、色々な会話が弾み、貴重な時間となりました。

また来年もその様な時間が過ごせる事を期待しております。

コンテストにご参加頂いた皆様、投票にご参加されたお客様、

ありがとうございました！



噴水の運転は毎日 10 時～20 時です



## 旭山野鳥メモ 52 ハシボソガラス

**ハシボソガラス** Carrion Crow *Corvus corone* スズメ目カラス科  
日本全土で留鳥。旭山では第1駐車場から噴水広場にかけての  
辺りに数羽いて、西側エリアではほとんど見なかったが、今年は森の  
家の周りになぜかよく来るようになった。農耕地を主とした平地から  
山地の開けた場所にいるがや山林や高標高地にはいない。

札幌市内でも山寄りではハシボソガラスが多く、旭山もほとんどが  
ブト、大通周辺に行くとボソの割合が高くなり平地で数が多くなる。

有史以前西アジアに生息していたが、農耕が広まるとともに広く  
ユーラシア大陸一円に分布域を広げたといわれている。

地面で採餌する際、ブトは歩いていてもすぐにホップして逃げるがボソはぎりぎりまで歩き続ける。おじぎす  
るように首を上下に大きく振りながら鳴く「決めポーズ」が特徴。秋と春先にオニグルミの実を上空から落とし  
割って食べるが、走行中の車の前に落とし踏ませて割ろうとする強者もいる。ブトは「胡桃割り」はしない。

他、ブトとの違い①ガーガー鳴く②頭が出張らず嘴の先までなだらかに細くなってゆく③羽が光の角度に  
より緑色に輝いて見えることはない④雛の巣立ちの時期でも近くを通る人を襲うことはほぼない、など。

芝生や花畑をひょこひょこ歩く姿は愛嬌があり、真っ黒じゃなければもっと人気が出そうな野鳥だ。



## 2023年8月の野鳥トピックス

- ・コサメビタキ(写真幼鳥): 7月中旬遊具広場と学びの森周辺が3分待たずに見られる「コサメビタキランド」に。毎年幼鳥が巣立つ7月に観察機会が増えますが、ここまで多かった年は初めてです
- ・シマエナガ: 時々見られている程度で観察機会は少ないです
- ・アオジ: 一時見られなかったものの7月に見られるようになりました
- ・キクイタダキ、シメ: 旭山では初めて7月に観察されました
- ・キビタキ: 囀りをしなくなり観察機会は少なくなってきました
- ・オオルリ: 幼鳥が時々見られていますが観察機会は少ないです
- ・クマゲラ: 7月に2日ほど親子が森の家の周りで見られました
- ・オオアカゲラ: 以前は園内では夏に見られない野鳥でしたが、近年夏でも見られるようになってきました
- ・ヤマゲラ: 7月に親子と思われる♀成鳥と♂幼鳥が数日間見られ、その後も散発的に見られています



## 旭山ミニ図鑑2023年8月



エゾシカ 2~3 歳雄



ヤマゲラ幼鳥と思われる♂



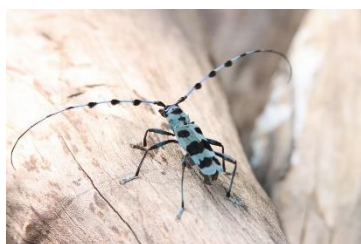
森の家の園入者アオダイショウ



ウラギンヒョウモン今年はよく見る



おなじみのキマワリ



ルリボシカミキリ今年も人気者



スルデ初秋の樹木の花



ミヤマヤブタバコ旭山で久しぶり

「アカゲラ通信」 第118号 2023(令和5)年8月10日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351



公式サイト